

北九州市立自然史・歴史博物館
(北九州市立いのちのたび博物館) 年報

平成 22 年度



2011 年

館長あいさつ

北九州市立自然史・歴史博物館(いのちのたび博物館)は、平成14(2002)年11月3日に開館してからすでに9年が経過いたしました。平成23年1月15日には開館以来の入館者も300万人を達成いたしました。これもひとえに来館者の方々に強い支持をいただいた結果であると考えております。

この博物館は、生命の進化の道筋を自然と人との両面から展示解説し、未来へ向け、私たちの生き方を考えるために「いのちのたび」をコンセプトにしています。

46億年前の地球誕生から現代までを、さまざまな化石、動植物標本、歴史資料などからひもといています。これらの資料が、わたしたちが現在直面しているさまざまな環境問題を解決していくための糸口となることを願い、坦々とした「いのちのたび」が続くことを祈っております。

さて、ここに平成22年度年報を刊行することとなりました。開館以来現在まで7年間年報を刊行してきませんでした。入館者300万人の達成も含め、年度ごとの館の歩みをきちんと記録しておくとともに、その経験を次年度以降の活動に活かしていくことが必要であるとの認識からです。

本年報により当館の活動概要を知っていただき、よりよい博物館を創り上げていくための積極的なご意見・ご批判を頂きますようお願い致しまして、刊行のごあいさつとさせていただきます。

平成23年9月

北九州市立自然史・歴史博物館
館長 伊藤明夫

北九州市立いのちのたび博物館「理念と方向性」

＜理 念＞

自然と人間の関わりを考える共生博物館

- 1 博物館の展示に於いて示していく
- 2 教育・普及事業に於いて啓発を行う
- 3 資料収集、保存及び研究を進めていく

＜方向性＞

知的アクセス権を保障する博物館——知的好奇心への対応

- 1 ミュージアム・ネット化構想を進める
- 2 常に開館している博物館「24時間ミュージアム」を推進する
- 3 知的な疑問や関心に責任を持って応える

セカンドスクールとしての博物館——将来への知的投資

- 1 学校等に対して誘致事業を推進する
- 2 学校教育の支援事業を強化、拡大する
- 3 家庭教育の支援事業を充実する

研究の成果を教育・普及に生かす博物館——社会への知的還元

- 1 知識と経験を生かし、質の高い展示と教育・普及事業を行う
- 2 知の集積施設として外部の委員・講師や他組織の指導・助言を行う
- 3 地域の特性を活かした研究を行い、広く情報を発信する

目次

館長あいさつ

北九州市立いのちのたび博物館「理念と方向性」

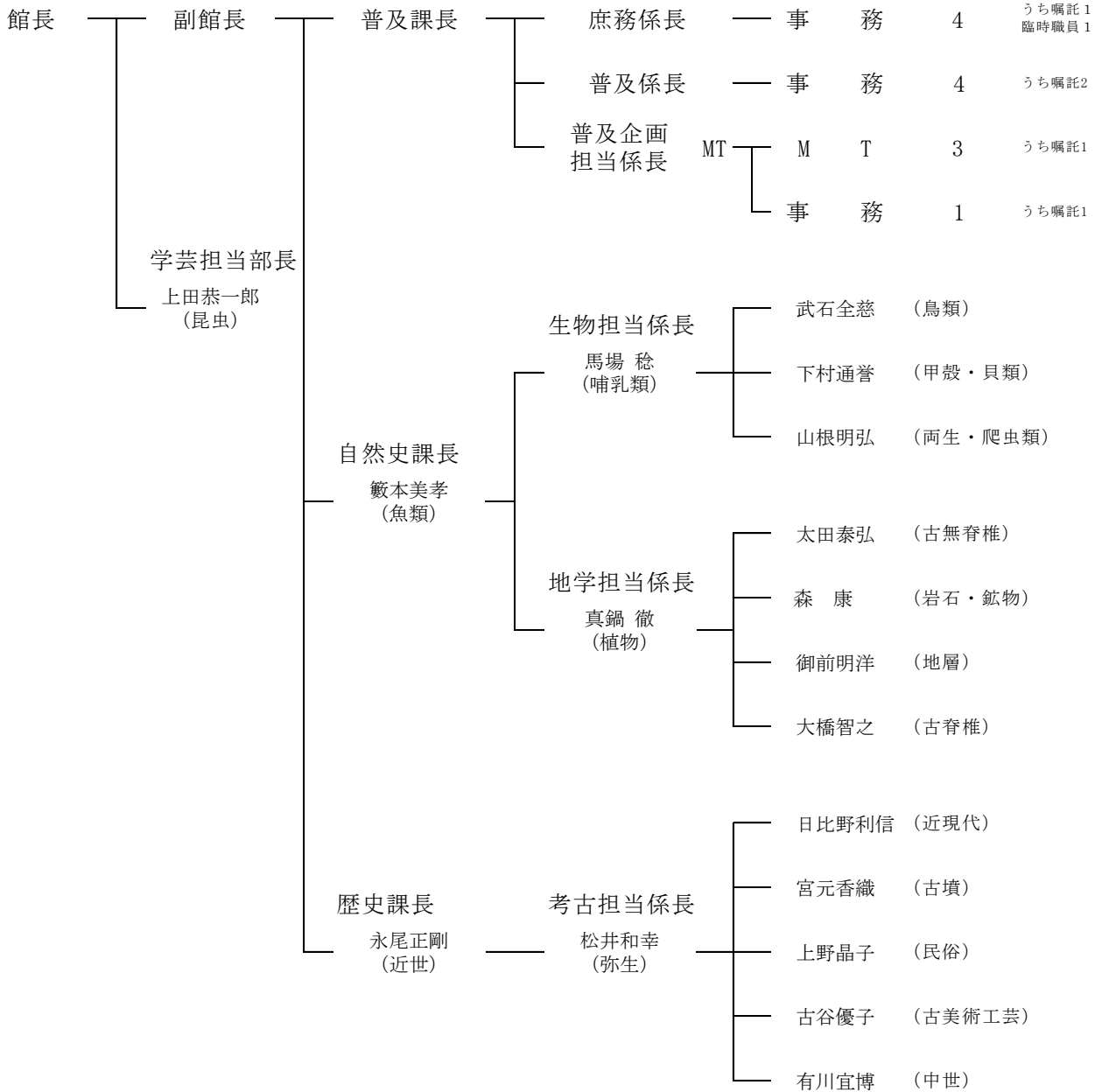
目次

1. 組織・運営体制	1
2. 博物館協議会	2
3. 平成 22 年度予算	3
4. 施設概要	4
5. 沿革	5
6. 入館者の状況	7
7. 特別展	8
8. ぼけっと企画展	13
9. 東アジア友好博物館館長会議	18
10. 入館者 300 万人達成 「ありがとう祭」	19
11. 教育普及活動	20
12. 博物館ボランティア（シーダー）の活動について	25
13. 資料の収集保存状況（自然史）	26
14. 資料の収集保存状況（歴史）	26
15. 資料の貸し出し状況（自然史・歴史）	27
16. 画像等資料の貸出状況（自然史・歴史）	28
17. 博物館刊行物	29
18. その他	30

1. 組織・運営体制

(1) 平成 22 年度組織

(平成22年5月1日現在)



(2) 名誉館員 (※役職は在職時)

太田正道	(自然史博物館 館長・自然史博物館 顧問)
藤丸詔八郎	(いのちのたび博物館 参事・特別研究員)
戸来義臣	(いのちのたび博物館 副館長)
税田昭徳	(いのちのたび博物館 主査)
藤井厚志	(いのちのたび博物館 参事・特別研究員)
小野勇一	(いのちのたび博物館 館長)
岡崎美彦	(いのちのたび博物館 主査)

2. 博物館協議会

(1) 博物館協議会委員（任期 平成 21 年 9 月 1 日～平成 23 年 8 月 31 日）

	安部大真	市立あやめが丘小学校長
副会長	泉 優佳理	市環境審議会委員
	木村洋子	アトリエ PAO 一級建築士事務所代表
	高倉洋彰	西南学院大学国際文化学部教授
会長	中越信和	広島大学大学院国際協力研究科教授
	中野紀和	大東文化大学経営学部准教授
	中野 等	九州大学大学院比較社会文化研究院教授
	錦織亮介	九州産業大学芸術学部非常勤講師
	松永和紀	科学ライター・市環境審議会委員
	真鍋 真	国立科学博物館地学研究部生命進化史研究グループ研究主幹
	武藤美智代	八幡東区高見自治会長
	村田朋美	(独) 科学技術振興機構技術移転調査室プログラムオフィサー
	山田 建	NHK 北九州放送局長
	吉武弘喜	九州造形短期大学長、九州産業大学美術館館長

(2) 日時

平成 22 年 9 月 4 日（土） 13:30～16:30

(3) 内容

①平成 21 年度事業実績

- ・入館者数・・・343,390 人
- ・特別展開催実績・・・「恐竜ラボ 2009～よみがえれ！恐竜ワールド（21.7.18～21.8.31）」、「世界遺産 ナスカ地上絵の謎」（21.9.19～21.11.23）」、「布のころ 受け継がれる母の想いとくらしの美」（22.1.2～22.2.21）」、
- ・企画展・・・11 回開催
- ・自然史友の会、歴史友の会の活動実績
- ・ボランティア活動実績 登録 54 名
- ・館長出前授業「いのちのたび」
- ・学芸員研究業績
- ・セカンドスクール事業
- ・バラ園「おもてなしの小径」新設

②平成 22 年度事業計画

- ・特別展開催計画・・・「どうぶつ大集合！～肉食系？草食系？～」(22.3.20～22.5.30)、「昆虫大接近！～みんなで遊ぼう・虫たちの森～」(22.7.17～22.9.5)、「禅寺広寿山の名宝 ～小倉にひらいた中国文化の華～」(22.10.9～22.11.28)、「古代メキシコ オルメカ文明展」(23.1.2～23.3.31)
- ・企画展開催計画・・・10 回開催予定

③市制 50 周年記念事業に向けて

3. 平成 22 年度予算

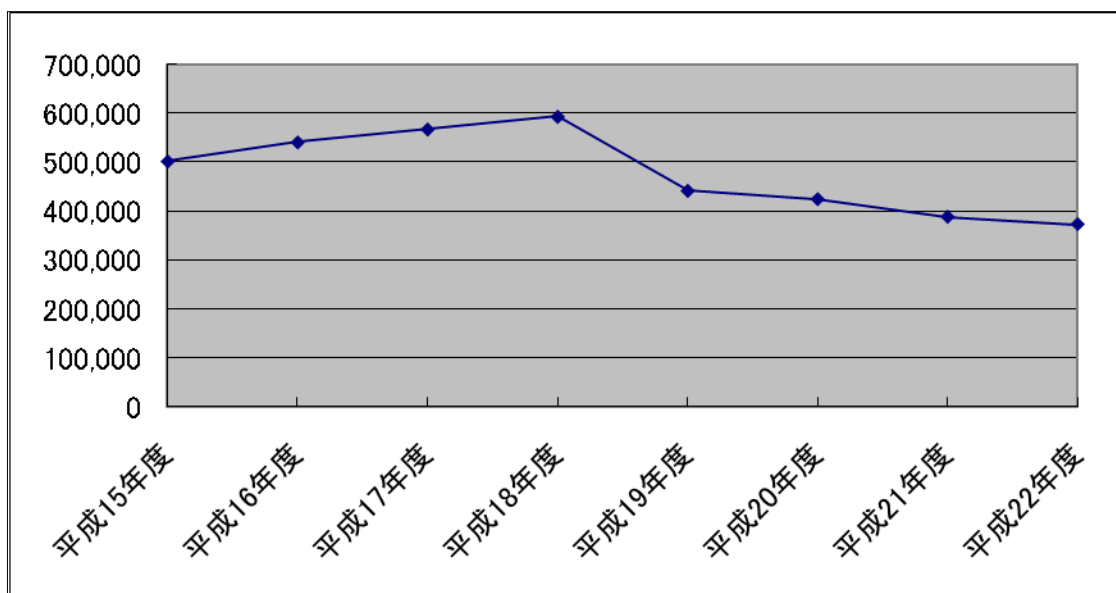
歳 入 (単位：千円)		歳 出 (単位：千円)	
博物館使用料 (入館料など)	124,000	企画展・特別展開催経費	66,532
ミュージアムショップ使用料など	1,161	資料整備・調査研究経費	19,952
図録販売等	2,202	教育普及経費	5,981
		博物館展示・設備調査経費	2,000
		その他経費	278,266
計	127,363	計	372,731

博物館予算の推移

年度	H. 14	H. 15	H. 16	H. 17	H. 18	H. 19	H. 20	H. 21	H. 22
予算額	2,476,072	501,604	540,788	567,441	593,467	441,058	424,070	387,868	372,731
備考	H. 14. 11. 3 開館		太陽光発 電設備整 備	太陽光発 電設備整 備	太陽光発 電設備整 備		情報シス テム機器 更新		

※なお、平成 22 年度太陽光発電量は 163,638kwh で、博物館の電気使用料の 4.6%を占める。

博物館予算の推移 (グラフ)



4. 施設概要

構造 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨構造） 地上 3階

各室面積

(単位：㎡)

室名	面積	室名	面積	室名	面積
展示部門	6,139	研究処理部門	871	管理部門	624
アースモール(PMを除く)	1,855	地学系研究室	57	館長室	25
ぼけっとミュージアム(PM)	253	生物系研究室(植物・昆虫)	29	副館長室	25
エンバイラマ館(リサーチゾーンを含む)	1,067	生物系研究室(動物・魚類)	29	事務室	163
自然発見館(バイオリウムを含む)	581	歴史研究室	87	応接室	32
ギャラリー館	509	骨格標本作成室	36	会議室	62
歴史展示(カルチャーモールを含む)	1,755	燻蒸室(前室を含む)	30	印刷室・出版物保管室	29
こども館	89	解剖室	46	救護室	21
		無脊椎動物化石処理室	30	更衣室	13
情報部門	1,047	脊椎動物化石処理室	30	一般倉庫	57
ホール(オプソキョウリを含む)	445	岩石鉱物処理室	37	交流員控室	25
ガイド館(倉庫2を含む)	386	昆虫標本処理室	30	管理人室	26
情報館	216	動植物標本処理室	60	会議室S	30
		液浸標本処理室	30	会議室R	30
探究部門	204	技工室	60	会議室X	49
実習室	123	整理室	60	外来市民研究室	37
講座室	81	暗室(前室を含む)	26		
収蔵部門	2,506	撮影室	41		
荷解室	96	電子顕微鏡室	40		
一時保管室	64	コンピューター室	28	サービス部門	463
組立室	52	保存科学室	40	ミュージアムショップ	156
冷凍室・冷蔵室(前室を含む)	49	薬品室・特殊薬品室	25	休憩ルーム	206
地学系収蔵庫	202	シャワー室	6	休憩デスク	101
液浸標本収蔵庫	221	器材倉庫	14		
重量物収蔵庫	204			供用部門	5,093
植物標本収蔵庫	234				
動物標本収蔵庫	165				
昆虫標本収蔵庫	238				
模式標本収蔵庫	44				
歴史資料収蔵庫	430				
考古資料収蔵庫(金属器を含む)	75				
特別収蔵庫	71				
古文書・古美術収蔵庫	140				
書庫	138			合計	16,947
展示準備室	83				

5. 沿革

- 昭和 50(1975)年 【歴史】昭和 5 0 年 8 月 北九州市立歴史博物館開館
- 昭和 5 I (1976)年 【歴史】昭和 5 1 年 1 月 豊前修験道・英彦山展
【自然史】昭和 5 1 年 5 月 小学生の発見をきっかけに、山田弾薬庫跡地で世界最古のニシン料魚類化石ディプロミスタスが発掘
【歴史】昭和 5 1 年 1 0 月 洞海湾の歴史展
【自然史】昭和 5 1 年 1 0 月 北九州産魚類化石展「北九州市の魚類化石～化石から見た北九州～」 主催：北九州市教委・北九州市産魚類化石展示実行委員会
- 昭和 53(1978)年 【自然史】昭和 5 3 年 4 月 戸畑市民会館内に「自然史博物館開設準備室」設置
【自然史】昭和 5 3 年 1 0 月 マッコウクジラの生の骨が到着
- 昭和 54(1979)年 【自然史】昭和 5 4 年 1 月 「北九州自然史友の会」が発会し、機関誌「わたしたちの自然史」の発行
- 昭和 55(1980)年 【歴史】昭和 5 5 年 7 月 日韓文化交流展～古代のロマンを求めて～
- 昭和 56(1981)年 【自然史】昭和 5 6 年 5 月 北九州市立自然史博物館が八幡駅ビルの 2・3・4 階を仮施設として開館
- 昭和 58(1983)年 【考古】昭和 5 8 年 8 月 北九州市立考古博物館開館～九州最初の考古学専門館として小倉北区金田一丁目に開館。
【歴史】昭和 5 8 年 1 0 月 北九州のまつり芸能展
- 昭和 59(1984)年 【自然史】昭和 5 9 年 9 月 友好都市締結 5 周年記念として、中国大連市の大連自然博物館で「世界の昆虫」展を開催
【歴史】昭和 5 9 年 1 0 月 北九州甲冑展～よろい・かぶとの歴史～
【自然史】昭和 5 9 年 1 2 月 響灘沖から巨大珪化木の引き上げ
- 昭和 60(1985)年 【歴史】昭和 6 0 年 1 0 月 「小倉藩創始 細川家の歴史展」
- 昭和 61(1986)年 【自然史】昭和 6 1 年 8 月 開館 5 周年記念特別展 「中国の動物と恐竜の世界展」
- 昭和 62(1987)年 【歴史】昭和 6 2 年 1 0 月 わが町の宝 「北九州市の指定文化財展」
- 昭和 63(1988)年 【考古】昭和 6 3 年 8 月 開館 5 周年記念 「北九州の中国陶磁展」
- 平成 2 (1990)年 【歴史】平成 2 年 1 0 月 関門の潮流展～翔けぬけた鎌倉武士たち～
- 平成 4 (1992)年 【自然史】平成 4 年 3 月 開館 10 周年記念出版物として「山田緑地の自然」を発行
- 平成 5 (1993)年 【考古】平成 5 年 4 月 考古博物館友の会発足
【考古】平成 5 年 1 0 月 開館 1 0 周年記念「終末期の古墳展」
- 平成 7 (1995)年 【考古】平成 7 年 5 月 展示解説ボランティア制度発足
【歴史】平成 7 年 8 月 戦後 5 0 周年記念 北九州平和資料展～戦時下の市民のくらし
- 平成 8 (1996)年 【自然史】平成 8 年 7 月 展示解説ボランティア制度発足
【総合】平成 8 年 1 0 月 「東田地区文化施設整備構想検討委員会」（委員長 有馬朗人 東京大学名誉教授）が、「環境」を共通テーマとする自然史、産業科学、環境、歴史の 4 館からなるチェーン博物館構想「東田地区文化施設の整備の方向について」を報告

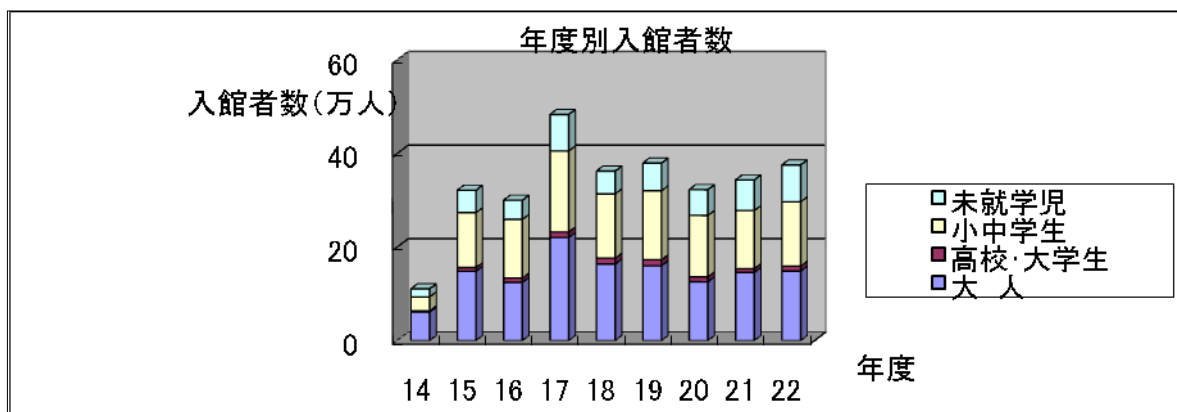
- 平成 10(1998)年 【考古】平成 1 0 年 8 月 開館 1 5 周年記念 「西と東の縄文土器展」
- 平成 11(1999)年 【総合】平成 1 1 年 6 月 (仮称)北九州市立自然史博物館・歴史博物館起工
- 平成 12(2000)年 【歴史】平成 1 2 年 1 0 月 伊能忠敬と九州展
- 平成 13(2001)年 【総合】平成 1 3 年 3 月 (仮称)北九州市立自然史博物館・歴史博物館の建物が竣工
- 平成 14(2002)年 【総合】平成 1 4 年 1 1 月 北九州市立自然史・歴史博物館オープン (小野 勇一館長)
開館記念企画展「セイスモサウルスとその世界」
- 平成 15(2003)年 平成 1 5 年 3 月 開館記念企画展「COME BACK ～よみがえれ文化と生きものたち～」
平成 1 5 年 4 月 特別展「わたしたちのまわりの鉱物展」
平成 1 5 年 7 月 特別展「発見！虫王国」
平成 1 5 年 9 月 特別展「恐竜時代の生きものたち」
平成 1 5 年 1 0 月 特別展「発掘された日本列島 2 0 0 3」
- 平成 16(2004)年 平成 1 6 年 1 月 企画展「博物館のお正月」
平成 1 6 年 3 月 企画展「博多祇園山笠展」
平成 1 6 年 5 月 特別展「葛飾北斎展」
平成 1 6 年 7 月 特別展「からくり・ロボット体験ランド」
平成 1 6 年 1 0 月 企画展「～片山正信氏の版画に見る～昭和の北九州百景」
企画展「襦袢の世界～堀切辰一・布のいのち見つめて～」
- 平成 17(2005)年 平成 1 7 年 1 月 特別展「古代都市誕生～飛鳥時代の仏教と国づくり～」
平成 1 7 年 3 月 特別展「なぜなに動物ワールド」
平成 1 7 年 7 月 特別展「世界の両生・爬虫類展」
平成 1 7 年 1 0 月 入館 1 0 0 万人達成！
平成 1 7 年 1 1 月 特別展「大名細川家～文と武の軌跡～」
平成 1 7 年 1 2 月 特別展「恐竜博 2005」
- 平成 18(2006)年 平成 1 8 年 7 月 特別展「昆虫ワールド・カップ 2006」
平成 1 8 年 1 2 月 特別展 「驚異の地下帝国 始皇帝と彩色兵馬俑展 ～司馬遷『史記』の世界～」
- 平成 19(2007)年 平成 1 9 年 7 月 特別展「世界最大の翼竜展」
平成 1 9 年 1 0 月 特別展「修験の歴史と自然」
平成 1 9 年 1 2 月 特別展「フェアブルにまなぶ」
- 平成 20(2008)年 平成 2 0 年 3 月 入館者 2 0 0 万人達成
開館 5 周年記念事業 (企画展) 「5 年間のあゆみ展」
平成 2 0 年 4 月 企画展「絵で見る植物界の多様性 原田英子植物画展」
平成 2 0 年 7 月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携 20 周年記念「近代北九州百年の歩み」
於：仁川広域市立博物館
平成 2 0 年 7 月 特別展「シーラカンス展 ブラジルの化石と大陸移動の証人たち」
平成 2 0 年 8 月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携 20 周年記念「開港場仁川の情景」於：いのちのたび博物館 ぽけっとミュージアム
平成 2 0 年 10 月 特別展「美しき九州の旅～「大正広重」初三郎がえがくモダン紀行」
- 平成 21(2009)年 平成 2 1 年 1 月 特別展「小倉のお殿さま～小笠原家と城下町展」

- 平成21年3月 企画展「ひとと海のもものがたり」
 平成21年7月 特別展「恐竜ラボ2009 よみがえれ！恐竜ワールド」
 平成21年9月 特別展「世界遺産ナスカ 地上絵の謎」
- 平成22(2010)年 平成22年1月 特別展「布のこころ～受け継がれる母の想いとくらしの美」
 平成22年2月 大連市旅順博物館と友好交流に関する協定を締結
 平成22年3月 企画展「どうぶつ大集合！肉食系？草食系？」
 平成22年4月 伊藤明夫館長が就任
 平成22年7月 特別展「昆虫大接近！～みんなであそぼう・虫たちの森～」
 平成22年10月 特別展「禅寺広寿山の名宝～小倉にひらいた中国文化の華～」
 平成22年10月 仁川広域市立博物館および大連市旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」調印
- 平成23(2011)年 平成23年1月 特別展「古代メキシコ・オルメカ文明展 マヤへの道」
 入館者300万人達成

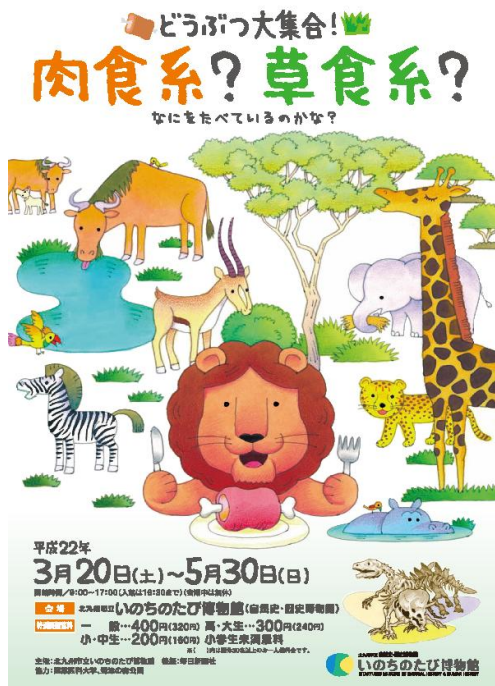
6. 入館者の状況

	年度	大人	高校・大学生	小中学生	未就学児	年計	累計
入館者総数 (人)	14	60,946(55.1%)	2,677(2.4%)	29,903(27.0%)	17,096(15.5%)	110,622(100%)	162,527
	15	148,376(46.2%)	7,950(2.5%)	117,407(36.5%)	47,692(14.8%)	321,425(100%)	483,952
	16	124,591(41.5%)	9,262(3.1%)	125,566(41.8%)	40,644(13.6%)	300,063(100%)	784,015
	17	220,645(45.6%)	11,699(2.4%)	173,303(35.9%)	77,848(16.1%)	483,495(100%)	1,267,510
	18	163,725(45.2%)	12,630(3.5%)	137,387(37.9%)	48,549(13.4%)	362,291(100%)	1,629,801
	19	160,194(42.2%)	12,771(3.4%)	147,601(38.9%)	58,881(15.5%)	379,447(100%)	2,009,248
	20	125,898(39.0%)	10,487(3.2%)	131,344(40.7%)	54,997(17.2%)	322,726(100%)	2,331,974
	21	145,843(42.5%)	8,151(2.4%)	124,106(36.1%)	65,290(19.0%)	343,390(100%)	2,675,364
	22	148,752(39.6%)	10,516(2.8%)	137,441(36.6%)	78,881(21.0%)	375,590(100%)	3,050,954

※平成14年度は11/3～11/10無料期間51,905人（累計に含む）



7. 特別展



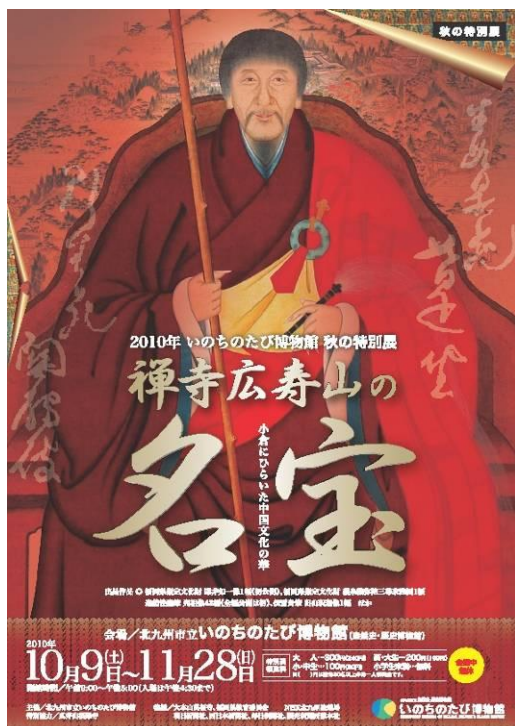
春の特別展

「どうぶつ大集合! ~肉食系? 草食系?~」



夏の特別展

「昆虫大接近! —みんなであそぼう虫たちの森」



秋の特別展

「禅寺広寿山の名宝小倉にひらいた中国文化の華」



冬の特別展

「古代メキシコ・オルメカ文明展マヤへの道」

(1) 春の特別展 「どうぶつ大集合！～肉食系？草食系？～」

期間：平成22年3月20日（土）～平成22年3月31日（水） 12日間

平成22年4月1日（木）～平成22年5月30日（日） 60日間 合計72日間

会場：ギャラリー館

入場料：大人400円、高・大生300円、小・中生200円、未就学児無料

期間中の観覧者数：H21年度6,922人 H22年度21,405人 合計28,327人（目標20,000人）

協力者：産業医科大学第一解剖学教室

担当学芸員：馬場稔

概要

動物が生きるために必要な採食という行動を、肉食と草食という食性の大別を基礎に哺乳類を中心として展示紹介した。肉食獣なら狩りのための適応、草食獣なら植物を食べるための適応や捕食者回避のための適応など、生きものたちが生きていくためにもっている様々な興味深い適応について解説し、鳥類・両生爬虫類・魚類・昆虫類などの面白い捕食行動や食性を持つものも同時に紹介した。初めての試みとして人が乗れる大型で頑丈な剥製を製作、子どもに乗ってもらって撮影等に供した。見てわかりやすい標本が多かったためか、低年齢層の子どもにも喜んでもらえたようであった。

イベント

展示にあわせて、動物の食べ物クイズ、どうぶつぬりえコーナー、スタンプラリーなど参加型のコーナーも準備した。

主な展示標本

大型の剥製2点（雌ライオン、ツキノワグマ）には子ども（小学生以下）に乗ってもらって撮影に供した。その他、トラ（剥製）、チーター（剥製、骨格）、ジャコウウシ（剥製）、シロイワヤギ（剥製）、猛禽類（剥製）、ゾウやカバの頭骨など約200点を展示。



ライオンに座って記念撮影



代表的な草食獣

(2) 夏の特別展「昆虫大接近！—みんなであそぼう虫たちの森」

期間：平成22年7月17日～9月5日（51日間）

会場：ギャラリー館

入場料：大人 500 円、高・大生 400 円、小・中生 300 円、未就学児無料

期間中の観覧者数：71,641 人（目標 64,000 人）

協力者：遠藤初子、長田七枝、村田理如、北九州高校魚部、馬場三男

担当学芸員：上田恭一郎、下村通誉

概要

昆虫の多様性を主テーマに下記の4項目に分けて展示解説を行った。標本展示では、記念写真撮影コーナーと観客誘導を兼ね、入り口にチョウや甲虫でオブジェを設置し、総計約2万点の遠藤俊次コレクション（昼蛾）、長田志朗コレクション（シジミチョウ）で壁展示を行い、クイズラリーとスタンプラリーコーナーを設置した。また、村田理如昆虫化石コレクション、メガニューラ復原模型で白亜紀前期、古生代の昆虫を紹介した。生態展示では、東南アジアの大型ナナフシ、コノハムシ類、大型カブトムシ、クワガタムシ類、北九州高校魚部による響灘の水生昆虫展示を行い、子供のために台の高さに配慮した。大型昆虫模型展示では、ミヤマクワガタ、ナミテントウ、イナバテナガゴガネの30倍拡大模型を用いて、記念写真撮影スポットとした。映像写真コーナーでは、入り口の3D 昆虫映像、カメムシの写真コーナー（馬場三男氏撮影）に加え、会場内に大型の紗幕を使いセミ等の昆虫写真を展示した。

来館者からは、生態展示が楽しかったという感想が多く寄せられた。

イベント

昆虫標本作製実演、イブニングミュージアム、ファミリーコンサートを開催。故遠藤俊次氏、故長田志朗氏のご遺族から寄贈された世界の昆虫コレクションを展示し、多くの観客に楽しんでいただけた展示会となった。ご遺族には開会式にて市長から感謝状の贈呈が行われた。イブニングミュージアムも好評で、懐中電灯を片手に熱心に昆虫を観察する子供たちの歓声があちこちで響いた。



入口の様子



熱心に見入る子どもたち

(3) 秋の特別展「禅寺広寿山の名宝 小倉にひらいた中国文化の華」

期間：平成22年10月9日～11月28日（51日間）

会場：ギャラリー館

入場料：大人 300 円 高・大生 200 円 小・中生 100 円 未就学児無料

※教育利用目的の小中学生の団体は無料

期間中の観覧者数：4,881人（目標5,000人）

協力者：広寿山福聚寺、大本山萬福寺、仰木写真工房、小倉城、今村元市、錦織亮介

担当学芸員：古谷優子 上野晶子

概要

広寿山福聚寺は、江戸時代のはじめ小倉藩主小笠原忠真が中国僧即非如一を開山に迎え創建した黄檗宗の寺院である。藩主菩提寺であった福聚寺には、江戸時代の小倉を語る上で極めて貴重な文化財が残っている。

会場では同寺に所蔵される名宝を主に三つのセクションに分けて紹介した。まず「1. 伝えられた名宝」では寛政5年（1793）の什物簿に注目し、これに記載された什物を紹介。広寿山福聚寺開創の事情と開山 即非如一の事跡については「2. 広寿山の開創と即非如一」で紹介。「3. 小倉藩主小笠原家と広寿山」においては福聚寺所蔵の小倉藩主の遺品などに着目し菩提寺としての福聚寺に目を向けた。入場者は中高年のお客様中心で、じっくりと作品を鑑賞される方が多かった。お子様には少し難しい内容であったが彫像や鎧など立体物には関心を示す傾向が見て取れた。また、展示が始まった後、黄檗宗や小笠原家、地元文化財に関する問い合わせが増えた。

イベント

10月9日（土）北九州市立大学名誉教授 錦織亮介先生を講師にオープン記念講演会「黄檗の美術～広寿山の名宝を中心に～」を開催。講演会後は錦織先生の解説で会場内を見学した。10月17日（日）には中国食文化研究家の板谷秀子先生の「飲んで学ぶ中国茶の世界」で中国茶や黄檗宗について解説を聞きながら中国茶の飲み比べを行った。10月31日（日）は「さわやかな朝に 法話と写経」と銘打ち広寿山福聚寺住職 黒田文豊先生にお話をいただき、写経を行った。また子ども向けには、黄檗宗をはじめとする禅宗の祖達磨禅師に因み「巨大だるまおとしに挑戦！」を開催。また広寿山福聚寺の開創について史実に沿った物語を作り「博物館のオリジナル紙芝居」で紹介した。



展示場の様子



紙芝居イベント

(4) 冬の特別展 「古代メキシコ・オルメカ文明展 マヤへの道」

期間：平成 23 年 1 月 2 日～3 月 31 日 (89 日間)

会場：ギャラリー館

入場料：大人 1000 円、高・大生 600 円、小・中生 300 円、未就学児無料

期間中の観覧者数：22,598 人（目標 17,000 人）

協力者：則松中学校箏部

担当学芸員：松井和幸・宮元香織

概要

日墨友好 400 年を記念して、名古屋大学大学院文学研究科助教 伊藤伸幸が監修し、京都文化博物館主任学芸員 南博史が企画し、名古屋市博物館学芸員 川合剛、北九州市いのちのたび博物館 松井和幸が展示・企画を共同で協議した企画展である。本展は京都文化博物館、当館、名古屋市立博物館、鹿児島県歴史資料センター黎明館を巡回する全国巡回展した。

内容は、マヤ文明をさかのぼること 1000 年前にメキシコ湾のユカタン半島の付け根に栄えた北中米最古の古代文明である「オルメカ文明」を日本で初めて本格的に紹介したものである。

メキシコ国家文化芸術庁、メキシコ国立人類学歴史学研究所の全面的な協力で、重さ 4.1 t の巨石人頭像やヒスイマスクなどオルメカ文明を代表する約 130 点余りの資料を展示した。

特別展を目的に来館した方が多く、市内在住の割合が高かった。幅広い年齢の来館者が訪れ、オルメカヘッドやヒスイマスクが印象に残ったようである。また、展示に加えて、クイズや体験コーナーを楽しむ様子がみられた。

イベント

特別展開会式には北橋市長、ルールデス・ソサ・マルケス氏（メキシコ駐日大使館文化・広報担当官）も出席し、則松中学校箏曲部の演奏、メキシコ人音楽家アレハンドロ・パラシオス氏のメキシコ音楽演奏が花を添えた。

1 月 22 日には歴史友の会との共催で講演会「古代メキシコ・オルメカ文明展とは何か」、2・3 月の毎土曜日には子ども向けイベントとして火起こし体験を実施し、当時の暮らしを体験した。

会場内には変身コーナーとしてジャガー神、オルメカヘッドのかぶりもの、ヒスイ・ろう石の穴あけコーナー、クイズ・スタンプラリー「オルメカからの挑戦状」を設置した。いずれもおおむね好評で、入場者のほとんどが体験した。



会場入り口



巨石人頭像

8. ぽけっと企画展

(1) 「～北九州の多様な大地～地球環境変遷の記録 Geodiversity in Kitakyushu」

期間：平成22年3月1日～23年7月6日

会場：自然史ぽけっとミュージアム No. 8

入場料：常設展料金のみで観覧可能

概要

大地の多様性は、人々の暮らしに密接にかかわっており、その理解なくして、人々の持続的発展はあり得ない。また大地は、地球環境の変遷を記録しており、特筆すべき重要な地質現象は、人類共通の遺産として保護、保全し、次世代に伝えていく必要がある。本展示では、北九州市周辺に所在する地質遺産（国指定天然記念物：平尾台、千仏鍾乳洞、夜宮の大珪化木、県指定天然記念物：門司の梅花石岩層など）を説明することで、北九州の大地の多様性を紹介した。また梅花石、平尾台の石灰岩、珪化木研磨資料、門司産アラトコンカ二枚貝化石などの実物資料を用い、多様な大地を深く理解し、保護・保全することの重要性を説いた。さらに平尾台カルストが日本を代表するジオ・サイトとして県内唯一選出されていることを解説、NPO 地質情報整備・活用機構の協力のもとタッチパネルを用い日本各地の地質100選を紹介した。

(太田泰弘)



(2) 「前田勇コレクション～匠の技～」

期間：平成22年4月10日～7月26日

会場：歴史ぽけっとミュージアム No. 9・10

入場料：常設展料金のみで観覧可能

概要

博物館が収蔵する「前田勇コレクション」を、2008年に追加寄贈された黒田家藤巴紋入り貝合わせ（初公開）を含めて紹介した。前田勇氏（故人）は福岡藩の鎮魂行事「火魔封火打釘」の伝承者で、同氏のコレクションは行事に関わる火消装束や武具類を中心に、男性の小物や女性の髪飾り、灯具や瓢箪など多彩である。今回はさまざまな細工物を中心に、作り手のすぐれた技と使い手のこだわりの心に焦点を当て、コレクションから107点を展示した。

(永尾正剛・日比野利信)



(3) 「北九州技の達人 孫次凧」



期間：平成22年4月10日～7月26日

会場：歴史ぽけっとミュージアム No. 11

入場料：常設展料金のみで観覧可能

概要

北九州市戸畑区に在住する、北九州技の達人である竹内義博さんの作品を中心に、凧とその歴史について紹介する展示をおこなった。義博さん作の孫次凧だけでなく、初代である孫次さんの作品についても初公開・展示した。

展示の構成は五部構成で、1章では当館蔵の浮世絵をもとに、江戸時代に凧揚げが流行したようすを説明し、2章では竹内義博氏の代表作である孫次凧の特徴を、北九州市内の区ごとにまとめた。3章では今回初公開となる孫次氏作の凧と、その妻、君乃さんが描いた凧絵を展示した。4章では凧の歴史やこぼれ話などをパネルで解説し、5章では義博さんと日出子さんが凧作りに取り組む様子を撮影・編集し、DVDにまとめ放映した。展示数は約60点。

展示期間中のイベントとして、竹内義博さんを招いた凧作り・凧揚げ教室を実施し、人気を博した。今後も北九州の伝統工芸などを紹介する展示を実施していきたい。

(宮元香織)

(4) 「一兵士の日中戦争」

期間：平成22年7月31日～10月25日

会場：歴史ぽけっとミュージアム No. 9

入場料：常設展料金のみで観覧可能

概要

小倉在住の一人の男性が日中戦争に出征し、戦死を遂げ、その後すぐに勲章を授与され、靖国神社に祀られて、その死が「名誉の戦死」として位置づけられる過程について、行軍日誌、戦場からの手紙や遺留品、勲章などの資料20点から追跡した。それによって、一兵士とその家族の視点から日中戦争を浮き彫りにし、戦争とはどのような出来事か考えた。

男性が戦地から送った手紙には、戦地の状況が報告され、家族に対する思いが記されているが、一方では、家族を心配させまいと、また、自らを奮い立たせるために、不安や弱音は表明されなかった。妻と幼い子供を遺しての戦死は、男性と家族にとってはあまりにも早すぎる「無念の戦死」だったに違いないが、社会的には「覚悟の戦死」「名誉の戦死」とされ、家族もそれを受け入れざるを得なかった。「名誉の戦死」はさらなる戦争への動員の論理として機能したのであり、戦争は人びとの生だけでなく死をも動員するものだった。

(日比野利信)



(5) 「あなたの知らないお墓のはなし」



期間：平成 22 年 7 月 31 日～10 月 25 日

会場：歴史ぽけっとミュージアム No. 10

入場料：常設展料金のみで観覧可能

概要

小倉北区の開善寺跡を発掘調査した際に出土した、近世墓関連資料を当館にて公開・展示した。近世墓でこれだけ多数の墓が調査された例は全国的にみても多くはない。

展示は四部構成で、一章では江戸時代における死因や死亡率などの説明、また武士と農民の頭骨から両者の顔つきが異なっていたこと、二章では墓の形式には身分差が表れることを説明し、箱型木棺と甕棺を展示した。三章では近世墓の副葬品を展示し、三途の川の渡し銭である六文銭や入れ歯など多彩な副葬品について解説した。四章では幽霊図を展示し、想像上のあの世について解説した。展示資料数は約 100 点。

展示場外には、江戸時代人と背くらべという写真撮影コーナーを設け、子どもたちにかなり人気であった。幽霊図や怪談は子どもも含めかなり話題になった。本展は副題として、「江戸時代の小倉を知る」と付けたが、今後も近世の発掘資料をもとにした展示を計画していきたいと考える。

(宮元香織)

(6) 「くらしのタイムマシン—写真でつづる 100 年前の北九州—」



期間：平成 22 年 7 月 31 日～10 月 25 日

会場：歴史ぽけっとミュージアム No. 11

入場料：常設展料金のみで観覧可能

概要

平成 21 年度、北九州市立大学文学部八百研究室によって当館所蔵の古写真整理が行われ、平成 22 年度にその成果発表として学芸員指導のもと学生が企画運営した連携企画展示である。

展示した資料は、小倉藩主の御用菓子商であった福田屋が所蔵していた明治から昭和にかけて古写真の拡大パネル及び関連資料である。(1)「建物から感じる当時の空気」(2)「鉄道がむすぶ旅の記憶」(3)「大正時代の農村の風景」(4)「ファッションの変遷」の4つのテーマから構成され、(1)では明治から昭和にかけての小倉の町並みの写真及び地図、(2)では京都などの旅行写真と当時の観光パンフレット、(3)では田畑で働く人びとの写真と農具、(4)では福田屋を取り巻く人びとと当時の着物などを展示した。また、会場には寄贈者である鎌田美津絵氏へのインタビュー映像も放映した。

(上野晶子)

(7) 「中世文書展」

期間：平成22年10月30日～1月10日

会場：歴史ぽけっとミュージアム No.9・10

入場料：常設展料金のみで観覧可能

概要

北九州市内に所在する中世文書を集めるとともに北九州ゆかりの一族の中世文書も借用して展示をした。

主な展示資料は門司文書（福岡県指定）、甲宗八幡神社文書（北九州市指定）、和布刈神社（北九州市指定）、波多野文書（北九州市指定）、平野文書（北九州市指定）、神代長野文書、長野文書、麻生文書（福岡市指定）、狩尾神社文書である。

このうち神代長野文書および長野文書は企画展示期間中に当館に寄贈されたもので、さっそくのお披露目となったものである。展示点数約100点。ただし、資料の保存上、前期・後期にわけて展示替えをした。

(有川宜博)



(8) 「堀切辰一コレクション 襦袢 —東北の布—」

期間：平成22年10月30日～平成23年1月10日

会場：歴史ぽけっとミュージアム No.11

入場料：常設展料金のみで観覧可能

概要

堀切辰一氏が収集し、当博物館が所蔵する古布コレクション「襦袢」（らんる）はそれが用いられた当時の人びとの生活を知るすぐれた生活資料である。本展覧会では、コレクションの中から東北独自の布や衣類を展示し、東北の衣生活について紹介した。展示は（1）「麻という素材」（2）

「刺し子」（3）「裂織」（4）「さまざまな布」の4構成で、展示資料は約15点である。（1）では木綿の育たない東北地方の布の素材として麻に注目した。（2）では布を丈夫に且つ保温性を高めるために施された刺し子には、青森県津軽地方のこぎん刺しや南部地方の菱刺などがあり、作り手の美意識が縫い込まれていることを紹介した。（3）では古い布を裂織することで、布を再利用するだけでなく、丈夫で温かい加工技術であることを示した。（4）では厚司やばんどりなど、東北独自の布を紹介した。

(日比野利信・上野晶子)



(9) 「江戸庶民の旅」



期間：平成23年1月15日～4月4日

会場：歴史ぽけっとミュージアム No. 9

入場料：常設展料金のみで観覧可能

概要

小倉藩の大庄屋を務めた中村平左衛門の伊勢参宮の事例を中心に、江戸時代北九州に暮らした人びとが行った旅を通して、江戸時代の人びとの生活を紹介します。

旅にはさまざまな手続きを経て藩の許可が必要だったし、毎年的人数制限もあったが、多くの人びとが寺

社参詣などを理由に旅を行った。江戸後期に盛んに出版された各地の名所図会は人びとを旅に誘い、ガイドブックとしての役割も果たした。目的地への移動には多大な時間と経費とエネルギーを要したが、逆にその道中こそが楽しみでもあった。旅装束、携行品、荷物の運搬、旅館への宿泊、各地の名産品とおみやげ、案内人の存在、病人の送り届けなど、江戸時代には旅に関わってさまざまな制度や文化が形成されていた。

(永尾正剛・日比野利信)

(10) 「わたしたちのまちの昔の暮らし」



期間：平成23年1月15日～4月4日

会場：歴史ぽけっとミュージアム No. 10, 11

入場料：常設展料金のみで観覧可能

概要

小学校社会科単元「わたしたちのまちの昔の暮らし」に即し、地域の人々の生活について、古い道具やそれを使っていたころの暮らしの様子についての展示を行った。No. 10 では、七輪などの明治から昭和にかけての昔の道具を並べ、電気製品がほとんどない時代の道具

を通して、当時の暮らしを紹介した。また、氷冷蔵庫、ポンプ式井戸、洗濯板なども展示し、子どもたちにとって身近な道具の昔の姿を展示した。さらに、No. 10 には明治後期から平成までの道具の変遷と社会の移り変わりについての年表を展示し、時代背景が分かるような工夫を行った。

一方、No. 11 では、昭和の部屋の様子を再現し、来館者が昔の家を訪問した気分になれるような展示を行った。展示資料は、白黒テレビ、ラジオ、足踏みミシン、手回し洗濯機などで、徐々に家電が浸透していった様子を再現した。さらに、北九州市の給食の変遷について、食品サンプルを用いて紹介した。

(上野晶子)

9. 東アジア友好博物館館長会議

いのちのたび博物館と、大韓民国仁川広域市立博物館、中華人民共和国大連市旅順博物館は、今までそれぞれの館と交流事業を実施してきたが、平成 22(2010)年 11 月 5 日に、この 3 館が東アジアに位置する友好博物館として、具体的な交流事業を推進するための合意書が、いのちのたび博物館において取り交わされた。

経過

- ・北九州市と仁川広域市の姉妹都市 20 周年を記念した相互交流展示
2008 年 7 月 19 日～9 月 21 日 「近代北九州 100 年の歩み」 於：仁川広域市立博物館
2008 年 8 月 2 日～10 月 5 日 「開港場仁川の情景」 於：いのちのたび博物館
- ・北九州市と大連市の友好都市提携 30 周年を記念して、2010 年 2 月 6 日いのちのたび博物館と旅順博物館との間で友好交流協定締結 於：いのちのたび博物館
- ・2010 年 8 月 6 日～8 日 仁川広域市立博物館、旅順博物館の担当者と北九州市立いのちのたび博物館において、東アジア友好博物館館長会議の内容に関して、実務者による会議を開催した。
- ・2010 年 11 月 5 日いのちのたび博物館において、いのちのたび博物館伊藤明夫館長、仁川広域市立博物館徐寛錫館長、旅順博物館郭富純館長によって「東アジア友好博物館に関する合意書」に署名が行われた。

内容

館長会議、学芸員交流、展示交流、市民・ボランティア交流、その他の交流事業などに関して合意し、館長会議の主催や、学芸員交流、展示交流を活発にしていくことなどの細かな点が明記された。

(松井和幸)



(旅順：郭富純館長、いのちのたび：伊藤明夫館長、仁川：徐寛錫館長)

10. 入館者 300 万人達成 「ありがとう祭」開催

平成 23 年 1 月 15 日に、開館以来の入館者が 300 万人を突破したため、2 月 11 日～13 日の 3 日間「ありがとう祭 入館者 300 万人達成記念」を実施した。

主なイベント

- ①みんなで組み上げよう恐竜骨格、②昆虫標本作成法、③おゆまるくんでレプリカをつくろう、④なつかしの昔あそび、⑤孫次凧づくり、⑥展示解説ツアー(自然史編、歴史編)、⑦なつかしの昔あそび、⑧MR/ミクスト・リアリティ(複合現実感)体験、⑨記念講演「カエルとサンショウウオ～水辺の隣人たち」、⑩レンジでできる植物標本、⑪巨大歴史すごろく、⑫超絶！化石クリーニング、⑬お野菜しばってDNA。

市内に配布したチラシ

場所	時間	2月11日(金)		2月12日(土)		2月13日(日)	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後
ガイダンス		13:30-15:00 みんなで組み上げよう恐竜こっかく		13:30-15:00 おゆまるくんレプリカづくり	10:30-11:30 巨大歴史すごろく	13:30-15:00 みんなで組み上げよう恐竜こっかく	
自然史展覧		14:00-14:30, 16:00-16:30 展示解説ツアー-自然史		14:00-14:30, 15:00-15:30 展示解説ツアー-歴史	14:00-14:30 おゆまるくんレプリカづくり	14:00-14:30 おゆまるくんレプリカづくり	
体験アツキ		14:00-15:00 おゆまるくんレプリカづくり		10:00-10:30 おゆまるくんレプリカづくり	10:00-10:30 おゆまるくんレプリカづくり	14:00-15:00 おゆまるくんレプリカづくり	
展示場		10:00-10:30 展示解説ツアー-自然史		11:00-11:30 展示解説ツアー-歴史	11:00-11:30 展示解説ツアー-自然史	11:00-11:30 展示解説ツアー-歴史	
カルチャーモール		13:00-16:00 なつかしの昔あそび		10:30-12:00, 13:30-16:00 MR/ミクストリアリティ体験	13:00-16:00 なつかしの昔あそび	10:30-12:00 なつかしの昔あそび	13:00-16:00 なつかしの昔あそび
アースモール							



恐竜こっかく



巨大歴史すごろく



おゆまるくん

11. 教育普及活動

(1) 普及講座

①自然史系の普及講座

自然史に親しみ、理解を深めてもらうため各学芸員の専門分野の講座を 27 回実施した。野外観察会：5 回、室内講座：9 回、たいけん講座：8 回、バスハイク：1 回、夏休教室：4 回。

種別	講座名	開催日	人数
野外観察会	都市林のモニタリング型植物観察会	2010年4月25日	27名
野外観察会	バードウィーク市民探鳥会	2010年5月9日	34名
野外観察会	都市林のモニタリング型植物観察会	2010年7月31日	17名
野外観察会	ズグロカモメを見る！	2011年1月23日	23名
野外観察会	カワセミを見る！	2011年2月13日	8名
室内講座	化石研究最前線	2010年5月9日	22名
室内講座	いろいろなかたちのアンモナイトにさわってみよう！	2010年5月30日	10名
室内講座	顕微鏡で見よう！美しい鉱物の世界	2010年6月6日	75名
室内講座	化石を含むいろいろな石の観察	2010年10月3日	29名
室内講座	電子顕微鏡で観る生き物のミクロの世界	2010年11月6日	8名
室内講座	さわって感じる美しい鉱物の世界	2010年11月14日	16名
室内講座	生き物の殻の形を調べる	2010年11月21日	5名
室内講座	鳥はなぜ飛べる？鳥だこを作って考えよう！	2010年12月19日	18名
室内講座	小さな化石にふれてみよう	2011年3月21日	32名
たいけん講座	親子で野菜から DNA をとりだしてみよう！	2010年6月20日	28名
たいけん講座	自分の唾液から DNA をとりだしてみよう！	2010年9月19日	3名
たいけん講座	親子で野菜から DNA をとりだしてみよう！	2010年10月17日	8名
たいけん講座	「けもの」の毛と骨の観察	2010年11月28日	28名
たいけん講座	フライドチキンから知る恐竜の骨	2010年12月4日	22名
たいけん講座	自分の唾液から DNA をとりだしてみよう！	2010年12月5日	4名
たいけん講座	自然史工作教室ムササビとタネのグライダー	2010年12月12日	17名
たいけん講座	今年一年の大そうじ！恐竜すす払い！	2010年12月26日	12名
バスハイク	御船町恐竜博物館見学および化石発掘体験	2010年8月6日	40名
夏休み教室	皿倉山の昆虫と植物の採集会	2010年7月24日	56名
夏休み教室	海岸生物の観察	2010年7月26日	102名
夏休み教室	化石の調べ方	2010年8月7日	28名
夏休み教室	植物の名前調べ	2010年8月22日	14名

②歴史系の普及講座

歴史や文化にかかわる講座を実施し、理解につとめた。連続講座を実施し、より深い学習を求める方々に向けた講座をおこなった。

種 別	講 座 名	開 催 日	人 数
体験講座	凧を作ってあげてみよう！	2010年4月29日	27名
体験講座	子供の日「若武者に変身！」	2010年5月5日	21名
連続講座	近世文書入門講座（全10回）	第2・4水曜日	19名
連続講座	近世文書読み方応用講座（全10回）	第2・4水曜日	17名

③自然史・歴史合同の普及講座

「いのたび自然塾」と称して、自然史課・歴史課共同で自然学習園などにおいて自然の恵みや古来から行われてきた年中行事などを体感するイベントを実施した。今後これらの講座は既存のものも交えて「収穫祭」と「年中行事」に分けておこなう予定である。

講 座 名	開 催 日	人 数
藍のたたき染めでオリジナルエコバックを作ろう	2010年7月31日	28名
朝摘みの藍で染めるてぬぐい	2010年8月28日	17名
十五夜と重陽の節句 お月見オブジェを作ろう！	2010年9月23日	16名
博物館の収穫祭 おイモさん祭り～掘ったり食べたり	2010年10月30日	29名
博物館の収穫祭 ドングリと遊んで食べよう	2010年10月31日	40名
もうすぐお正月！オリジナルしめ縄作り	2010年12月19日	22名

(2) 博物館実習

①自然史課 博物館実習

学芸員課程の学生 16 名を受け入れ、各学芸員が数講座ずつ担当した。2 期に分け各期間内で 5 日間と 10 日間を学生が選択。

＊ 1 期（8 月 10 日～8 月 21 日：日曜・月曜休講の 10 日間）

- ・ 人数：6 名（うち 2 名は 5 日間）
- ・ 所属大学：九州産業大学 2 名、福岡大学 2 名、高知大学 1 名、琉球大学 1 名

＊ 2 期（8 月 31 日～9 月 11 日：日曜・月曜休講の 10 日間）

- ・ 人数：10 名（うち 3 名は 5 日間）
- ・ 所属大学：北九州市立大学 4 名、九州産業大学 1 名、福岡大学 2 名、信州大学 1 名、高知大学 1 名、岡山理科大学 1 名

②歴史課 博物館実習

学芸員課程の学生 11 名を受け入れ、2 期、5 日間と 10 日間の日程で実施した。

＊1 期（22 年 7 月 27 日～31 日、同 8 月 24 日～28 日）

- ・ 人数：7 名（うち 3 名は 5 日間）
- ・ 所属大学：西南学院大学 2 名、八洲学園大学 1 名、活水女子大学 1 名、高知大学 1 名、京都外国語大学 1 名、立命館大学 1 名

＊2 期（22 年 10 月 26 日～28 日、23 年 1 月 8・9、22・23 日、同 1 月 15・16・29・30 日）

- ・ 人数：4 名 所属大学：北九州大学 4 名

(3) 職場体験・インターン等

各機関から依頼を受け、館内の視察・解説、職場体験、インターン等の対応を行った。

- ・ 対応件数計：57回
- ・ 主な依頼先：県内外の教育機関（小学校～大学）、NPO法人、博物館、役所内各部局等

(4) 館外での講演等

依頼を受けた講演会等で市民・一般の方々へ、各学芸員の専門分野の講話や解説を行った。

- ・ 対応件数計：62回
- ・ 主な講演先：小中学校（市内）、大学等教育機関（県内外）、市民カレッジ（生涯学習センター主催・10回の講座）、国内の博物館、各自治体、メディア等

(5) 公務による大学での講義

- ・ 北九州市立大学
「自然史へのいざない」自然史課学芸員全員
「自然と人間のエコロジー」真鍋徹
「遺伝と生命」山根明弘
「地球環境概論」武石全慈・真鍋徹
「博物館資料論」永尾正剛
- ・ 福岡教育大学
「博物館学」太田泰弘
「博物館経営論」永尾正剛

(6) 団体・委員会への就任依頼

- ・ 太田泰弘（自然史課）：県内の地質鉱物に関する会議
- ・ 武石全慈（自然史課）：「八代のツルおよびその飛来地」保護対策策定調査研究委員会委員、北九州学術・研究都市貴重種対策検討委員会、「全国的な自然史系標本セーフネット構築」のためのワーキンググループ委員
- ・ 馬場稔（自然史課）：特別天然記念物カモシカ食害対策事業の保護指導委員、「八代のツルおよびその飛来地」保護対策策定調査研究委員会委員、福岡県環境審議会委員
- ・ 真鍋徹（自然史課）：Science for All Fukukans ネットワーク運営委員会、小石原川ダム環境保全対策検討委員会委員
- ・ 森康（自然史課）：県内の地質鉱物に関する会議
- ・ 山根明弘（自然史課）：小石原川ダム環境保全対策検討委員会委員、宇佐市オオサンショウウオ保護管理委員
- ・ 宮元香織（歴史課）：宗像市文化財保護審議会、佐賀県文化財保護審議会

(7) 館長出前授業

北九州市内の小・中学校を対象に専門的な見地から自然科学分野についての講演を行うことで、児童生徒の科学に対する興味・関心を高め、生涯にわたって知的好奇心を育てていく基礎と生命を尊ぶ心情を育てることを目的とする。また、いのちのたび博物館の認知度を高め、博物館は身近なものであるという認識を形成し、当館のイメージアップを図る。

- ・小学校出前授業
 - ①北九州市立藤松小学校（7月1日）「いのちのたび ～ 唯一無二のいのち ～ 」
 - ②北九州市立皿倉小学校（1月13日）「いのちのたび ～ 唯一無二のいのち ～ 」
- ・中学校出前授業
 - ①北九州市立高見中学校（12月2日）「いのちのたび ～ 唯一無二のいのち ～ 」
 - ②北九州市立 中央中学校（2月3日）「いのちのたび ～ 唯一無二のいのち ～ 」

(8) その他

学芸員と研究協力等の関係にある外部組織と、館内を会場としてシンポジウム、研究会、ワークショップを実施し、多くの方々に博物館をより広く知ってもらう機会を設けた。

- ・親子で楽しめる！「いのちのたび博物館・化石シンポジウム」（2010年7月19日・月（祝）、12:00～17:00、ガイド館・実習室、約100名、担当者：藪本・大橋、協力：財団法人福岡文化財団）
- ・九州両生・爬虫類研究会（2011年2月12日・土、9:00～12:00、ガイド館、担当者：武石・山根）
- ・「キッズ・カフェ☆」未来の街をつくろう！～迫力！ディスカバリージャパンの映像でみるエコ未来都市（2011年3月26日・土、13:30～15:15、ガイド館、23名、担当者：真鍋、協力：SAFnet）

(9) 博物館セカンド・スクール事業

博物館が第2の学校（教室）として、子ども達の来館機会を創出し、新しい発見や感動を胸に理科・社会科への学習意欲を持たせる仕組みを作りたい。よって以下の3つの柱をかかげ、学校教育現場と博物館との結びつきを強めるためにおこなう事業である。

①博物館への誘致事業

- 博物館誘致事業
修学旅行等の団体客を誘致するため学校へガイダンスビデオ、パンフレット類送付及び旅行会社へのはたらきかけ
- 博物館利用案内事業
「いのちのたび」情報誌を月1回、幼稚園・保育所向け情報誌を年2回発行。
- 情報発信手段活用による誘致活動
博物館ホームページ、市政だより等の活用

②学校教育支援事業

- 博物館活用資料整備事業
各種ガイドブック、ワークシート、体験活動プログラム資料等の整備
- 体験学習プログラムの提供
化石レプリカづくり、ペットボトル顕微鏡、化石発掘体験等、7種類の体験学習の提供
- 授業づくり支援
「博物館利用の手引き」の活用、小学校への出前授業、館内での授業、ディスカバリーボックスの学校への貸し出し、職場体験学習、教員研修の受け入れ等
- ぽけっとミュージアム NO.8 の展示
- その他
八幡東区理科展会場、北九州市理科教育研究会総会会場

③家庭教育支援事業

- いのちのたび子ども教室（学芸員による講話、体験学習）
- 東田サマースクール（近隣の三施設と合同で体験学習）

【各事業の学校関係利用状況】

○市内外の学校関係誘致実績

団体	保・幼	小学校	中学校	他学校	合計
団体数	194	830	131	74	1,229
人数	10,095	60,087	11,012	5,562	86,756

○体験プログラム受講者数

団体数	受講者数
139	5,557

○出前授業・館内授業団体数、参加人数

団体数	参加団体
25	1,559

○いのちのたび子ども教室

教室数	各参加人員	のべ参加人員
16	20	320

12. 博物館ボランティア（シーダー）の活動について

(1) 人数

- ・登録人数 50名 [男性 21名 女性 29名]
 20代 (3名) 30代 (3名) 40代 (2名) 50代 (10名)
 60代 (16名) 70代 (15名) 80代 (1名)

(2) 活動実績

- ・延べ日数 353日
- ・延べ活動回数 2,268回 (平均 45.4回/年・人)

(3) 活動内容

- ・主な活動としては、館内案内、常設展・特別展解説、スポット解説、ミュージアムティーチャーの体験学習プログラム補助 (化石レプリカ・顕微鏡・勾玉・DNA・化石発掘・昔の道具調べ等)、学芸員の普及講座補助、子ども教室・東田サマースクール補助他を行った。
- ・それぞれの得意分野を生かしての活動としては、様々な恐竜や生き物などの「折り紙」、九州の民話から抜粋した「手作り紙芝居」、お手玉・こま回しなどの「昔あそび」、綿の栽培・収穫・糸紡ぎ・機織り体験をする「小倉織」等を行った。

(4) 研修

- ・毎月1回の学芸員との「交流ゼミ」を通して、シーダーとしての資質の向上に努めた。

実施日	講話題 (話者)	人数
第62回	4月27日 「いのちの始まりと終わり」 (伊藤明夫)	24名
第63回	5月27日 「哺乳類の収蔵標本について」 (馬場稔) 「恐竜学のこれまでとこれから」 (大橋智之)	19名
第64回	6月23日 「魚類の収蔵標本について」 (飯本美孝) 「液浸収蔵庫に保管されている海産無脊椎動物標本の紹介」 (下村通誉)	11名
第65回	7月29日 「夏の特別展「昆虫大接近！」展示解説」 (上田恭一郎) 「当館所蔵の岩石・鉱物標本—その構成と特徴—」 (森康)	16名
第66回	8月31日 「戦争展示の可能性」 (日比野利信) 「北九州市の都市域に残存する樹林の状況」 (真鍋徹)	17名
第67回	9月24日 「文部科学省研修報告 韓国の博物館を訪ねて」 (宮元香織) 「北九州ジオパークの可能性について」 (太田泰弘)	17名
第68回	10月20日 「広寿山の名宝と什物簿にまつわる人間模様」 (古谷優子) 「今年、板櫃川で高頻度で見つかった四肢異常のツチガエルについて」 (武石全慈)	12名
第69回	11月25日 「化石や堆積物からわかる白亜紀の特殊な環境」 (御前明洋) 「小倉織について」 (上野晶子)	19名
第70回	12月24日 「北九州の中世文書〜ぼけっと企画展展示解説〜」 (有川宜博) 「小さな隣人 北九州のカスマンショウウオ」 (山根明弘)	16名
第71回	1月25日 「メソサウルス 〜大陸移動の証人たち〜」 (大橋智之) 「古代メキシコオルメカ文明展について〜特別展解説〜」 (松井和幸)	21名
第72回	2月15日 「霧島・新燃岳でなにが起こったか」 (森康) 「その後のニホンカモシカ—特に大分県での現状」 (馬場稔)	18名
臨時	2月24日 「多様な生態系を見る 〜森の豊かさと美しさ〜」 (名古屋大学教授 山本進一氏)	14名
臨時	3月8日 「子どもたちの博物館体験」 (九州大学大学院 坂倉真衣氏)	14名
第73回	3月24日 「歴史は正しく伝えられているか？」 (永尾正剛)	21名

- ・シーダー研修実施 現シーダー23名・ボランティア講座生13名 参加
 日時 平成23年3月18日(金) 9:00~17:00
 場所 マリンワールド海の中道・・・バックヤードツアー参加
 福岡市博物館・・・常設展・特別展「生誕250年 大北斎展」

13. 資料の収集保存状況（自然史）

(1) 平成 22 年度資料登録状況（点）

平成 22 年度の自然史資料登録点数は下記の通りとなっている。

21 年度末累計	22 年度登録数					22 年度末累計
	寄贈	寄託	購入	採集	小計	
生物系 76,827	96	0	123	18	237	77,064
地学系 30,896	598	810	4	10	1,422	32,318
合計 107,723	694	810	127	28	1,659	109,382

(2) 平成 22 年度収集資料の概要（主な収集標本：未登録資料を含む）

点数の上では寄贈標本の比重が大きいが、特別展・企画展での展示を目的とした資料の収集にも努めている。

寄贈：平間敏之鉱物標本 74 点、岡崎美彦化石標本（直角石ほか）109 点、長田志朗コレクション（シジミチョウ類）15,125 点など

購入：北海道産大型アンモナイト 1 点など

作成委託：獣類剥製標本（クリハラリスなど 6 点）、爬虫類剥製（アオホソトカゲ、マングローブヘビ）および骨格標本（ミズオオトカゲ、ボアコンストリクター）など

14. 資料の収集保存状況（歴史）

(1) 平成 22 年度資料収集状況（点）

平成 22 年度の歴史資料の収集状況は下記の通りとなっている。

21 年度末累計	22 年度登録数					22 年度末累計
	寄贈	寄託	購入	採集	小計	
歴史系 22,461	2,114	950	50	0	3,114	25,575
考古系 43,882	0	0	0	0	0	43,882
合計 66,343	2,114	950	50	0	3,114	69,457

(2) 平成 22 年度収集資料の概要

寄贈・寄託・購入に分けて、主要なものを挙げる。

寄贈：黄檗宗研究家・郷土史家 吉永卯太郎関係資料 1799 件（添田裕吉氏寄贈）

村田家伝来の古文書、収集絵葉書 一括（村田アツ子氏寄贈）

長野文書 中世北九州の武家の古文書 2 巻（長野悠氏寄贈） など

寄託：広寿山福聚寺資料 小倉の黄檗宗寺院福聚寺資料 154 件

玉江家文書 行橋の豪商飴屋の古文書 796 点 など

購入：高木応水画幅、村田応成画・西田直養賛の掛幅 各 1 点

堀切辰一氏古布コレクション 46 点

嘉永改正分見大坂図、満洲派遣記念写真アルバム 各 1 点

15. 資料の貸し出し状況（自然史・歴史）

番号	担当課	資料名	点数	貸出先	展覧会名など	期間
1	自然史	双眼鏡	30	北九州市立かぐめよし少年自然の家	「かぐめよし自然少年団；野鳥観察会」	H22. 4. 23～H22. 4. 25
2	自然史	関門層群産恐竜の歯化石レプリカ	1	和歌山県立自然博物館	特別展「和歌山に恐竜がいたころ - 白亜紀前期の化石代集合 -」	H22. 6. 15～ H. 22. 9. 30
		有田層産アンモナイト化石	1			
		白亜紀淡水魚化石の復元画像デジタルデータ	1			
3	自然史	ムラサキトビケラ類標本	3	千葉県立中央博物館	論文作成時の研究比較標本として	H22. 6. 7
4	自然史	ジャガー（剥製）	1	京都府京都文化博物館	特別展「古代メキシコ・オルメカ文明展 マヤへの道」；巡回展込み	H22. 7. 20～H23. 9. 20
5	自然史	タヌキ等剥製標本	36	山口県立山口博物館	企画展「やまぐち動物大百科」	H22. 7. 13～H22. 9. 2
6	自然史	中生代昆虫化石	3	鹿児島県立博物館	企画展「とべ とべ とんぼ」	H22. 6. 20～H22. 9. 26
7	自然史	小倉北区響灘産ニセホバシライシ珪化木研磨資料	1	戸畑区役所まちづくり整備課	「夜宮の大珪化木」保存展示室	H22. 9. 22～H23. 9. 21
8	自然史	キューシュウフウサギ剥製標本	3	到津の森公園	H23年干支展示	H22. 12. 22～H23. 3. 4
9	自然史	直方隕石及び隕石を納めている箱（レプリカ）	2	次城県自然博物館	企画展「46周年の旅路の果てに - 隕石がみえてきたもの -」	H23. 2. 7～H23. 6. 30
10	自然史	ヨコバイ類	3	田畑 郁夫 氏	論文作成時の研究比較標本として	H23. 1. 6～H24. 1. 4
11	自然史	シッキム産 <i>Satarupa zulla</i>	1	千葉 秀幸 氏	論文作成時の研究比較標本として	H23. 3. 3～H24. 3. 1
12	自然史	北九州関門層群千石層産カメ化石	3	早稲田大学；平山 廉 氏	共同研究として複数年貸出；年度毎に更新	H23. 4. 1～H24. 3. 31
13	自然史	宗像市産哺乳類化石（コリフォドン類）標本	14箱	福岡県立恐竜博物館	共同研究として複数年貸出；年度毎に更新	H23. 3. 20～H24. 3. 19
14	歴史	宮原遺跡出土 石庵丁	1	大阪府立弥生文化博物館	大阪府立弥生文化博物館 常設展	H22. 4. 1～H23. 3. 31
15	歴史	多鈕細文鏡レプリカ	2	北九州市立松本清張記念館	企画展「松本清張 最後の小説 神々の乱心」	H22. 4. 7～9. 30
16	歴史	小倉織 羽織（豊前小倉織研究会復元資料 No. 1）	1	北九州まちづくり応援株式会社（小倉城）	企画展「歴代藩主が愛したもの～小倉織と上野焼～」	H22. 7. 15～9. 6
		小倉織 帯（豊前小倉織研究会復元資料 No. 12）	1			
		小倉織 帯（豊前小倉織研究会復元資料 No. 14）	1			
		小倉織 袴（豊前小倉織研究会復元資料 No. 8）	1			
		小倉織 袴（豊前小倉織研究会復元資料 No. 17）	1			
17	歴史	縄文文様刻印キット	2	熊西市民センター	こどもエコクラブ「たらばる探検隊」の活動「縄文土器づくり」	H22. 8. 2～8. 23
		木綿地袴纏（堀切辰一コレクション襦袢 No. 1663）	1	福岡県新社会推進部県民文化スポーツ課	第18回（平成22年度）福岡県文化賞受賞者の記者会見での展示	H22. 9. 8～9. 10
19	歴史	村上佛山「小瓶冬影」墨跡	1	行橋市教育委員会（行橋市歴史資料館）	特別展「生誕200年記念 村上佛山展」	H22. 9. 10～11. 17
20	歴史	北浦廃寺出土鬼瓦 写真No52	1	築上町教育委員会	企画展「鬼」	H22. 10. 1～11. 19
21	歴史	即非如一像 寛文11年自賛	1	九州国立博物館	特別展「黄檗 - OBAKU」	H22. 12. 28～ H23. 6. 20
		即非観瀑図	1			
		隠元隆琦墨蹟「海西法窟」額字原書	2			
		木庵性沼墨蹟「開国元臣」	1			
		即非如一墨蹟 遺傷	1			
22	歴史	華光菩薩像（黄檗四聖図のうち） 范道生筆	1	行橋市教育委員会	企画展「京築のあけぼの展」	H23. 3. 3～6月下旬
		行橋市 宝山貝塚出土縄文土器	1			
23	歴史	行橋市 宝山貝塚出土土器片	1	北九州市立小倉城庭園	企画展「小倉城 綿が織りなす無限の世界」	H. 23. 2. 26～4. 24
		小倉織男児袴	1			
		神安工場の小倉織袴見本裂地	1			
		小倉縮着物地	1			
		徳川美術館所蔵小倉織羽織（築城則子復元作品）	1			
		袴（No. 5 袴 - 4豊前小倉織研究会復元資料）	1			
		袴（No. 6 袴 - 5豊前小倉織研究会復元資料）	1			
袴（No. 17 袴 - 9豊前小倉織研究会復元資料）	1					

16. 画像等資料の貸出状況（自然史・歴史）

番号	担当課	資料名	点数	貸出先	掲載誌など	期間
1	自然史	三葉虫画像データ	1	第一学習社	文部科学省検定教科書「地学基礎」	H24. 1. 10発行予定
		アンモナイト画像データ	1			
		サメの歯画像データ	1			
2	自然史	メガニューラ復元模型スライド	1	株式会社 ワークス・ゼロ	書籍「地球生物データファイル」第8号	H23. 4. 5発行予定
3	自然史	クロツラヘラサギ 生態写真	2	株式会社 ア・プリアリ	花王エコラボミュージアムの常設展示（10年間）	H23. 6. 8～約10年間
4	歴史	吉田初三郎 戸畑市鳥瞰図	1	沢見市民センター開館50周年記念事業実行委員会	沢見市民センター開館50周年記念誌	H. 22. 5. 15刊行
5	歴史	西国内海名所一覧	1	㈱サンマーク N a s s e 編集部 北九州支社	Nasseホームページ (http://kitakyushu.nasse.com/) のトップページ特集7月トレンド「北九州歴史探訪」	—
6	歴史	宗祇馬上図	1	㈱読売新聞西部本社	読売新聞「紀行の旅」	H. 22. 9. 7
7	歴史	歌川国芳 「山海愛度図会 豊前小倉織」	1	北九州市立小倉城庭園	企画展「小倉城 織が織りなす無限の世界」パネル	H. 23. 2. 26～4. 24
		「諸鉦業鏡 小倉織機之図」	1			
		小倉織男児袴	1			
8	歴史	小笠原忠真画像	1	株式会社 ハウスフル	「アナタの名字SHOW」で放映	H23. 2月下旬～3月下旬
9	歴史	小笠原文書 「明治四辛未之記」	1	みやこ町歴史民俗博物館	「みやこの歴史発見伝！みやこの先人」DVD	H. 23. 4月
10	歴史	弥生式壺型土器（北九州市小倉南区宮原遺跡出土）	1	株式会社 学研ネクスト	『マイティーネクスト社会6年』	H. 23. 4. 1刊行予定
11	歴史	アルバム1 2-1、3-6、4-1、5-3、12-6、161-1-4、163-3、227、22、51、52、64、67、108、131、165-18・19、228-39、写真帖 6-5、13-2（福田屋古写真）	20	北九州市立大学文学部	「くらしのタイムマシン」展 報告書	H. 23. 3. 31刊行
		奥井忠義画像（福田屋資料）	1			
12	歴史	県指定 即非如一像 寛文11年自賛	1	九州国立博物館 館長 三輪嘉六	特別展図録「黄檗・OBAKU」	H22. 12. 28～ H23. 6. 20
		即非如一倚像	1			
		即非観瀑図	1			
		隠元隆琦「海西法窟」額字原書	2			
		木庵性沼「開国元臣」	1			
即非如一 遺像	1					
華光菩薩像（黄檗四聖図のうち）	1					
13	歴史	木綿地袴纏（堀切辰一コレクション 襦袢 No. 1663）	1	福岡県新社会推進部県民文化スポーツ課課長	第18回（平成22年度）福岡県文化賞贈呈式・記念イベント広報チラシ	H22. 9. 8～9. 10
14	歴史	小倉織袴（豊前小倉織研究会復元資料 No. 8）	1	株式会社メディア21	10月17日放映 TVQ「至福の時間」	H. 22. 10. 17 11:45～12:25
		小倉織袴（豊前小倉織研究会復元資料 No. 17）	1			
15	歴史	福田屋の店舗内外の写真	1	福岡県文化財保護指導委員 牛嶋英俊	「西日本文化」誌 448号	H22. 12. 1刊行
		看板	1			
		菓子木型	1			
16	歴史	宗祇馬上図	1	有限会社和泉書院 代表取締役 廣橋研三	島津忠夫著作集別巻『宗祇の顔・画像の種類と変遷』	H. 23. 4月刊行予定
17	歴史	1996 北九州市立考古博物館『縄文と弥生の神と祈り』27頁写真IC22	1	鳥取県埋蔵文化センター所長	平成23年3月刊行予定『鳥取県の考古学 第1巻 旧石器・縄文時代』	H. 23. 3月刊行予定
18	歴史	西国内海名所一覧	1	株式会社 アーテファクトリー 関亦崇尋	デアゴスティーニ『週刊江戸』56号	H22. 12月下旬～ H23. 1月上旬
19	歴史	法雲明洞像	1	黄檗宗布教師会 会長 榊原直樹	「黄檗山歴代住持集」に掲載	H23. 1月上旬～2月上旬
20	歴史	法雲明洞筆 墨跡「風清子掛香」	1			

17. 博物館刊行物

(1) 研究報告 A 類 自然史 第 9 号 (2011 年 3 月 31 日発行)

Yuiti Ono, museum director and ecologist: an overview of his academic and administrative career. 1-2.

A new paramunnid isopod of the genus *Heterosignum* Gamô, 1976 (Crustacea: Asellota) from central Japan. Michitaka Shimomura. 3-8.

Revision of the Subgenus *Limbusa* Moore, [1897] (Lepidoptera, Nymphalidae, Adoliadini): Part 2. Group division and descriptions of species (1). Takashi Yokochi. 9-106.

An updated review of the fish faunas from the Crato and Santana formations in Brazil, a close relationship to the Tethys fauna. Paulo M. Brito and Yoshitaka Yabumoto. 107-136.

コイ科魚類オイカワ *Zacco platypus* (Temminck and Schlegel, 1846) の骨学的研究. 宮田真也・籾本美孝・平野弘道. 137-156.

Gap characteristics and gap regeneration in secondary deciduous broad-leaved forests on Mt. Jiri, South Korea. Tohru Manabe and Jong-Suk Song. 157-165.

(2) 研究報告 B 類 歴史 第 8 号 (2011 年 3 月 31 日発行)

【調査報告】

「柳井家文書の紹介」上野晶子・田中希美雄・岡野愛

「平成 22 年度文部科学省学芸員等在外派遣研修報告 大韓民国における子ども博物館の現状と役割」宮元香織

【資料紹介】

「寛政五年広寿山什物簿」古谷優子

【論文】

「豊前国上野焼陶工の生業」永尾正剛

(3) 図書『安川敬一郎日記』第 3 巻 (2011 年 3 月 31 日発行)

18. その他

(1) 自然史友の会の活動

目的

博物館とともに楽しく自然を研究し、正しく自然を理解し、自然史学の普及発展に寄与し、会員相互の親睦を図ることを目的とする（自然史友の会規約第2条）。

会員数

676名（平成23年3月末現在）

役員等（平成22～23年度）

会長：小林 繁、副会長：原田隆好・土佐野 実、幹事長：新海義治、事業担当幹事7名、出版担当幹事10名、庶務会計担当幹事4名、会計監査2名、評議員38名、顧問14名

年会費

正会員：大人 3,000円、小・中・高生 1,000円、家族 4,000円 賛助会員：10,000円

活動内容（平成22年度）

(1) 会誌「わたしたちの自然史」の発行（B5版、総カラー24ページ）

第111号（5月31日発行）：「ため池の水落しで水草相の変化を見た」など11件の調査報告等

第112号（8月27日発行）：「セボシタビラの産卵母貝選択」など19件の調査報告等

第113号（10月30日発行）：「アカギカメムシの記録」など10件の調査報告等

第114号（2月15日発行）：「クロカナブンの採集報告」など12件の調査報告等

第115号（3月31日発行）：「建物内で子育てをしたオオルリ」など9件の調査報告等

(2) 研究部会の活動：例会の実施

地質鉱物（第113～121回例会）、化石（第302～313回例会）、植物（第117～122回例会）、

昆虫（データ入力12回、ジュニア観察会3回）、水生動物（第277～282回例会）、両生・爬

虫類（第140～150回例会）、鳥類（第120回例会）

(3) 研究部会合同野外観察会の実施

9月26日に北九州市小倉北区山田緑地にて実施。参加者53名（大人45名、児童8名）。

(4) 博物館との共催の野外観察会の実施

野外観察会・夏休み教室・バスハイクを11回実施。

(5) 自然史友の会主催室内講座「植物細密画を描いてみよう！」の実施

第1回（6月27日、24名）と第2回（11月7日、12名）を博物館にて実施。

(6) 研究発表会の実施

4月29日に博物館にて「ニホンヒキガエルの産卵期の行動」など14件の発表。参加者67名。

(7) 岡崎学芸員退職記念講演会の実施

4月29日に博物館にて「福岡の四足動物化石研究 -30年間の進展-」を講演。

(8) 感謝状の受領

2月11日に北橋健治北九州市長から、永年の博物館活動への貢献で友の会に感謝状が贈られた。

(9) 会議等の実施

総会（4月29日）、評議員会（3月21日）、三役会（1回）、出版担当幹事会（5回）、事業担当幹事会（2回）、庶務会計担当幹事会（1回）、親睦会（4月29日）を実施。

(1) 歴史友の会の活動

目的

本会は、考古学など歴史に関する学習を通じて自己啓発と会員相互の親睦を図り、正しい古代史への理解と認識を高めるとともに、博物館への協力によって北九州地域の文化の向上に寄与することを目的とする（歴史友の会会則第2条）。

会員数

217名（平成23年3月末現在）

役員等

会長：山中英彦、副会長：林義秀・野口委有、顧問：石田友安・上田功、会計3名、監事2名、企画担当5名、会員管理担当2名、講座運営担当15名、遺跡見学運営担当10名、広報・開始編集5名

年会費

正会員：4,000円 賛助会員：10,000円以上 臨時会員：実費（資料代）：700円

活動内容（平成22年度）

(1) 会誌「友の会だより」の発行（A4版、総カラー6ページ、年3回）

(2) 講演会

4月17日（土）「秦漢帝国の偉業を探る一都城・陵墓・直道調査の新成果から」東亜大学教授 黄曉芬 154名

6月19日（土）「環濠集落の形成と銅矛のおまつり～小倉南区重留遺跡の発掘調査から～」(財)北九州市芸術文化振興財団 佐藤浩司、「九州最大の方形周溝墓に葬られた二人の幼児～小倉南区域野遺跡の発掘調査から～」(財)北九州市芸術文化振興財団 谷口俊治 120名

7月24日（土）「西日本の古代山城」福岡県世界遺産登録推進室参事 磯村幸夫 124名

8月21日（土）「涅槃図から読み解くお釈迦様のものがたり」いのちのたび博物館 歴史課 古谷優子、「考古学の宝箱2010」読売新聞社 板橋旺爾 104名

9月18日（土）「平城遷都1300年記念 平城遷都の真実」奈良文化財研究所副所長 井上和人 154名

10月23日（土）「新説 鉄砲伝来」国立歴史民俗博物館 名誉教授 宇田川武久 95名

12月18日（土）「江戸時代における食文化交流」いのちのたび博物館 歴史課 上野晶子、「九州縄文時代の装身具－ヒスイと九州ブランドー」熊本大学埋蔵文化財調査室 大坪志子 111名

1月22日（土）「特別展「古代メキシコオルメカ文明」記念講演古代メキシコ・オルメカ文明とは何か」京都文化博物館 南博史 161名

3月12日（土）「宗教学から考える沖ノ島の祭祀」立正大学・慶応義塾大学講師 正木 晃 123名

(3) 遺跡見学会

5月15日（土）～16日（日） 帝釈峡、東広島、北広島町方面 43名

6月13日（日）新入会員見学会 市内及び周防灘沿岸部の遺跡 24名

10月1日（金）～3日（日） 奈良・平城京ほか 67名

11月7日（日） 大分県立歴史博物館ほか 63名

2月20日（日） 九州歴史資料館、春日奴国の丘資料館 80名

(4) 感謝状の受領

2月11日に北橋健治北九州市長から、永年の博物館活動への貢献で友の会に感謝状が贈られた。

